

# 萌芽枝の数を減らす「もやかき」による、地上部と地下部の良好なバランス

## 【背景・目的・成果】

人家裏山等の高木性広葉樹危険木を伐採した後に萌芽させ、樹高が低い林として管理する方法（低林管理 図1）において、その後の管理の違いが樹木の根系に与える影響はわかっていません。

そこで、伝統的管理法の一つである萌芽再生時に幹の数を減らす管理（もやかき 図2）が根系に及ぼす影響を知るために、萌芽再生後の幹の数が1本の個体と複数本の個体とで、地上部と地下部の状況や倒れにくさが異なるかどうかを明らかにしました。

その結果、幹の数が複数本よりも1本の個体の方が、地上部と地下部のバランスが取れて（図2）倒れにくいことにより斜面を安定させることができました。

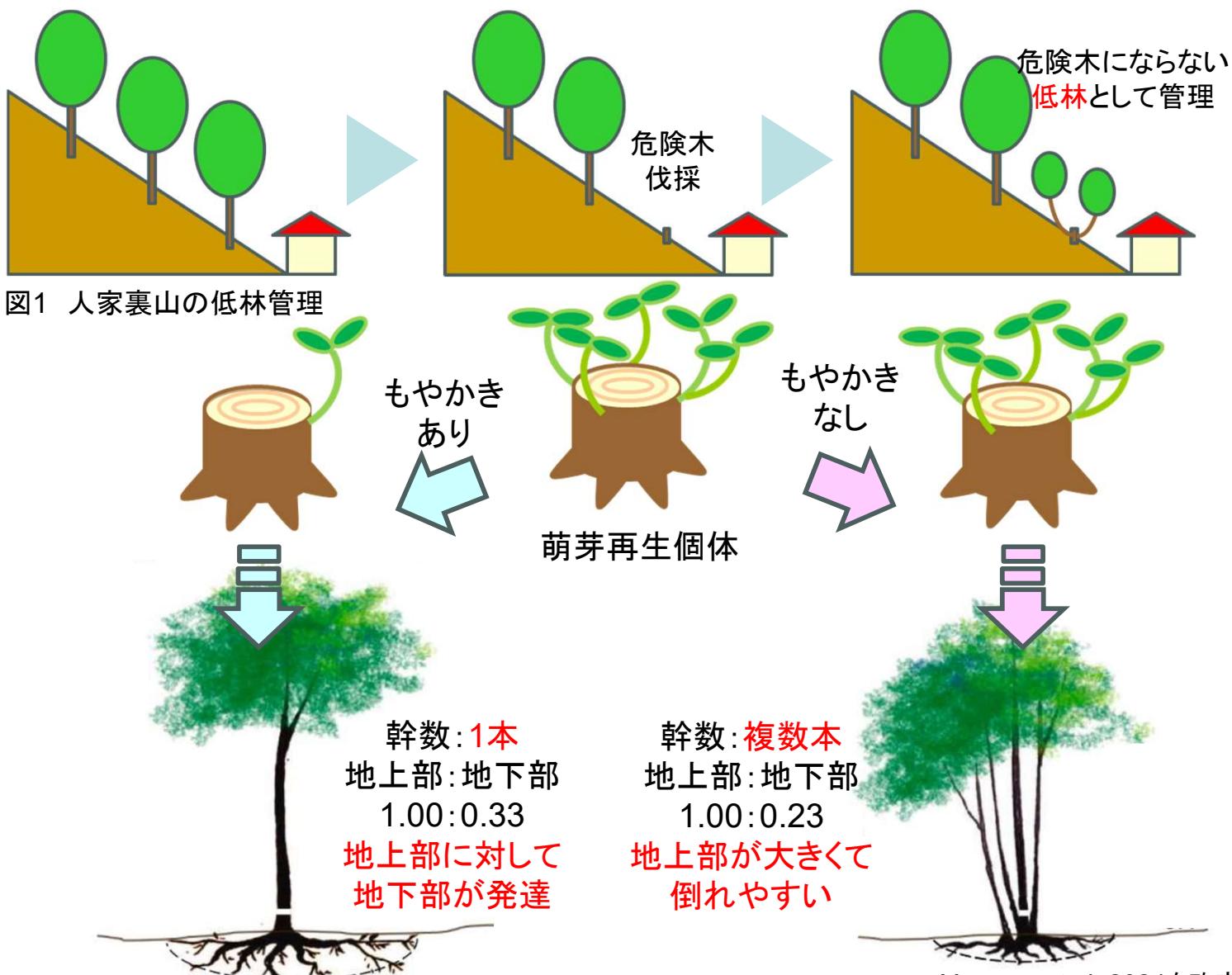


図2 萌芽再生個体のもやかきと地上部・地下部のバランス

この成果は、兵庫県立大・名古屋大・福知山公立大・東京大との共同研究(科研費JP20H03040)で得られたものです

## 【技術の活用】

里山防災林整備などの「災害に強い森づくり」のための技術として活用します。



兵庫県  
Hyogo Prefecture

兵庫県立農林水産技術総合センター  
森林林業技術センター

25-08

研究成果紹介  
動画サイト

